

SSSV参加報告

サマーコースに参加して

歯学科3年 村山未帆

私は夏休みの期間に2週間、SSSVのプログラムでインドネシアのガジャマダ大学サマーコースに参加させていただきました。

8月18日に小川教授の引率のもと、ジョグジャカルタの空港に到着致しました。東南アジア特有の空気に包まれた瞬間、SVが始まるのだという実感とともに大きな楽しみと少しの不安が生まれました。

サマーコースは新潟大学からの単独派遣とは異なり、日本からは徳島大、九州大からの学生と、他国からはインドネシアのジャワ島、バリ島、スマトラ島の学生とマレーシアからの学生が集まって、レクチャーやディスカッション、実地研修を行うものです。サマーコースは様々な大学と地域から学生が集まっているためたくさんの交流があり、またそれぞれの文化や歯科教育の違いについても知ることができます。



19日からサマーコースが始まり、初めの1週間のプログラムの内容としましては、予防歯科小川教授の講演をはじめ、ガジャマダ大学の先生方からの講演や歯磨き粉の製作実習、ハーブ工場の見学（インドネシアでは現在でもハーブによる伝統的な治療が根強く残っているため）などを行いました。

その後2週目は小学校での歯科健康教育指導やpublic health centerへの訪問を致しました。public health centerは日本で言うと、保健所と区役所や地区事務所（地区センター）の両方の役割を担っている施設で、治療だけでなく、ヘルスプロモーションや小学校への歯科検診、地域住民の全ての家庭を訪問しての健康調査および分析などを行なっています。public health centerは多くの仕事を抱えているものの、金銭面や人材面が非常に不足しており、困難が多い印象を受けました。

最後に新潟大学の予防歯科に所属していたDrian先生、Dita先生のお宅に2泊させていただきました上、滞在中も先生方には大変お世話になりました。暖かく迎えて下さる先生方や学生の皆さんのお陰で、非常に充実した学び多い研修となりました。

加えてこのように貴重な機会を与えて下さった魚島教授、石田先生をはじめとする新潟大学の先生方、引率して下さった小川教授、ガジャマダ



大学のDrian先生、Dita先生をはじめとする先生方や学生の皆さんにこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



チュラロンコン大学SSSV報告

歯学科5年 赤羽根 開 成
歯学科5年 遠 藤 和 樹

私たちは今年1月にタイのバンコクにあるチュラロンコン大学への短期留学に参加させていただきました。

研修内容は、歯学部校舎や病院、キャンパスの案内から始まり、各診療科や学生の臨床実習の見学をしました。現在新潟大学で行っている臨床実習とは異なる点が多くあり、とても興味深いものでした。

その中でも特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は矯正診療科での見学です。タイでは日本より多くの人々が矯正治療を行っていて、歯並びがよい人を多く見かけることができます。その理由としては矯正治療の価格と人々の矯正治療に対する価値観の違いによるということを知りました。矯正治療は日本では約100万円するのに対してタイでは約12万円で治療を受けることができます。また、日本では矯正治療をしていることを隠したがる人が多くいるのに対して、タイでは矯正治療をしていることに誇りを持っている人が多いです。例えば、日本では矯正用のゴムは白色が基本ですが、タイでは矯正用ゴムがカラフルであり、患者さんが気分によって変えることができるそうです。

2つ目はモバイルクリニックの見学です。マンマーとの国境の近くの歯科医院がない田舎の地

方にバスで訪れ、スケーリング、CR・アマルガム充填、抜歯の3つを無料で地域住民に提供しているところを見学しました。その治療に必要な経費は王族の方がプレゼントしてくれているようで、その王女様とも実際にお会いすることができました。超高齢社会がますます深刻化する日本の、特に歯科医院が少ない地域における地域医療についてさらに深く考えさせられるきっかけとなりました。

改めましてこのような貴重な機会を提供していただいた先生方に感謝し、この経験を活かして残りの学生生活も全力で勉学に励みたいと思います。



SCRP参加報告

SCRP活動報告

歯学科4年 相澤知里

この度2019年8月23日に東京都にあります歯科医師会館にて行われました、令和元年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会に出場いたしました。摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上誠教授をはじめ多くの方々のご指導のもと無事に発表を終え、臨床部門において第2位をいただきました。

「嚥下障害を持つ患者において口腔、咽頭領域への冷刺激が嚥下誘発を促進する」という過去の論文をもとに、室温で結晶を構成し29度の融点を持ち舌上で冷感を発生させる結晶性油脂（Crystalline oil and fat, COF）を用い、①舌の各部位における冷感の違い、②COFがもたらす冷感による随意嚥下運動の変化、③COFの投与による皮質運動路の興奮性の変化について調べました。結果として奥舌へのCOFの投与はTRPM8を介し冷感を発生させ随意嚥下運動を促進させること、またそれには皮質運動路以外の何らかの皮質領域が関わっているだろうということが明らかとなりました。超高齢社会である日本では嚥下障害を抱える高齢者が増え続けています。より効果的な臨床的アプローチの開発は、誤嚥性肺炎の予防のみならず生活の質の観点からも

急務であると考えます。この度の結果はその大きな第一歩になったと感じています。

SCRP大会を終えた今も、充実した日々が鮮明に思い出されます。関連のある様々な論文を読み疑問点を整理しそれらを明らかにしていく中で、新たな発見が生まれるたびに心を弾ませていたのを覚えています。本研究に夢中になり最後までやりきることができたのは、専門的な知識の未熟な私に丁寧に指導くださった先生方、快く実験に協力してくださった方々の支えがあったためであると感謝しています。心より感謝申し上げます。

審査本番の研究発表は、程よい緊張感の中で大いに楽しむことができました。英語を通して自分の考えを伝えられたり質問に答えることができたことは、本当に嬉しく自信を持つことができました。

この度の経験は、私の一生の宝物になりましたし、これからの励みになると思います。感謝の気持ちをお忘れずに、今後更に気を引き締めて精進して参ります。



SCRP活動報告

歯学科4年 岸本奈月

この度、共同研究者としてSCRPに参加させていただきましたので、報告いたします。

実は私は、編入して本学歯学部へ入りました。おそらく学生の多くが研究活動は初めて行うという状況のなか、私は既に博士号を取得しており、立場が少し特殊です。編入前は本学にて摂食嚥下リハビリテーションの臨床に携わり、また、経口摂取が口腔環境にもたらす影響について、研究させていただいたこともあります。編入後はただ学生生活を送るだけでなく、これまでの経験を生かし研究なども行いたいと考えていたので、このような機会をいただけたことは大変ありがたいことです。

私たちは、「結晶性油脂がもたらす嚥下誘発促進効果」をテーマに、研究を行いました。実験に用いた結晶性油脂は、融点が29℃であり、融解する際に強い冷感があります。実験により、本油脂により随意嚥下回数は有意に増加し、併せて咽頭筋誘発電位を記録することで、これは末梢への冷刺激のみならず、随意嚥下運動にかかわる中枢性

の興奮性変化をもたらす可能性がある、という興味深い結果が得られました。嚥下訓練のひとつとしてアイスマッサージが広く知られていますが、この油脂はその融解度の特性により、摂食嚥下障害患者へ用いる安全性の高い食材としての応用が期待できそうです。

筆頭研究者の相澤さんはこのような研究発表は初めてということでしたが、その姿勢は本当に前向きで、研究を「自分のもの」にしていたことがとても印象的でした。研究発表、特に質疑応答は、研究内容・意義を真に理解していなければ満足に行くことはできません。大会前日に行った予演で原稿も見ずに堂々と発表する姿を見て、もし私が現役の学部生であったら、ここまで主体的に取り組み、難しい内容をしかも英語で、自信をもって発表することができただろうかと、襟を正される思いでした。

今回SCRP出場に際し研究に取り組めたことは、今後歯科医師としてどのように社会に貢献できるか考えるうえで、大きな経験のひとつとなりました。

最後になりましたが、熱心にご指導くださいました井上誠教授はじめ摂食嚥下リハビリテーション学分野の先生方に、心より感謝申し上げます。

